

第1回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

1 日時 平成27年8月27日（木）午後3時00分～午後5時10分

2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 書庫棟2階会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議事次第

- （1）開会
- （2）委嘱状交付
- （3）市長挨拶
- （4）座長挨拶
- （5）会議の運営について
- （6）上天草市の人口等の現状について
- （7）住民アンケートの実施について
- （8）今後のスケジュール（案）について
- （9）ワークショップ
- （10）閉会

5 配布資料

- 資料1 上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
- 資料2 会議の公開について
- 資料3 上天草市の人口等の現状について
- 資料4 住民アンケートの実施について
- 資料5 今後のスケジュール（案）
- 資料6 上天草市人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定体制

参考1～7

6 議事概要

（1）開会

○事務局より、堀江市長から指名の田中尚人氏に座長に就任いただく旨を説明した。

（２）委嘱状交付

（３）市長挨拶

- ・平成２７年度は地方創生の元年と言われており、本年度から５カ年計画をもってそれぞれの自治体の実情に合った取組みを行うこととなっている。日本全体を見渡しても人口減少の時代に入っており、少子高齢化が進む一方、東京一極集中の弊害もあり、国が今後の将来を考えた時に、地方が自立していく方針を考えなければならないという強い思いがある。来年は地方創生の交付金として１，０８０億円を概算要求したという石破大臣の記事があったが、地方創生に向けて潤沢な予算があるというわけでもない。
- ・我々はこの地域が自治体としてあり続けなければならないと思っており、この地域に住む方々が安心・安全に暮らし、ゆとりのある生活を送ることができる自治体を継続させることを目指して行きたい。
- ・本市の地方創生は、色々と課題を抱えているが、民間とどのように連携していくかが非常に大きな課題であると認識している。これまでのように行政の主導のみで地域経済対策や環境整備を実行しても限界があるので、民間の方の視点もそれぞれ分析した上で本日出される意見も参考とし、我々も積み上げていかないといけない。
- ・本市は大きな自治体ではないので、広域的に連携していくことも地方創生の一つと考えている。
- ・地方創生は、都市から地方へどうやって人の流れを作るか、どのように雇用につなげるか、これから地域を担う方々がここで暮らしたい環境を作っていくか等、これらにつながる政策を皆様方と一緒に見つけていきたい。

（４）座長挨拶

- ・私は、宇城市の三角西港を世界遺産の登録に協力する等、文化財と景観によるまちづくりを行う専門学者で、熊本へは１０年前に来た。これから上天草市のまち・ひと・しごと創生をどのようにして作りあげていくか考えていきたい。
- ・上天草市の良さやこれまで保ってきた歴史等、「上天草らしさ」をなるべく守りつつ、変えるべきところは変えながら計画を作っていければと思っている。

（５）会議の運営について

○事務局より資料1及び資料2に基づき説明。

【意見等】

- ・要綱第7条で作業部会というものが規定されているが、まち・ひと・しごと創生というのは、若い人がすごく大事だと思っている。地元の上天草高校の皆さんと一緒にワークショップを行うのは可能なのか。次年度以降は（まち・ひと・しごと創生に係る活動ができるような）部活みたいなものができたらいいなというイメージを持っている。

- 個別に検討する必要があると思うが、現時点では絶対に無理とはい切れない。（事務局）

- 可能か不可能かでいうと可能である。内容についてはもう少しお聞かせ願いたい。

（6）上天草市の人口等の現状について

○事務局より資料3に基づき説明。

【意見等】

- ・先進国になり、高齢社会を迎えていく日本で人口の自然減はある程度仕方ない。問題にすべきは社会減で、上天草市で生まれた子どもたちが外に出てしまい、戻ってこないという状況に上天草市でどのような施策を作るべきかを色々考えることが、このまち・ひと・しごと創生の根幹となる。2035年には上天草市の人口が2万人を切るようなので、こういう現状を受け止めていかなければならない。

（7）住民アンケートの実施について

○事務局より資料4に基づき説明。

【意見等】

- ・資料4の目的で「若年層を取り巻く」とあるが、若年層の定義をどう捉えているのか。また、上天草市2013年人口転出入のグラフの中で転入者数の山が2つあるが、この数値をどう捉えているか確認しておきたい。

- まず1点目の若年層の定義については、明確な根拠はなく印象ということになるが、大まかに20歳代から30歳代前半くらいまでと考えている。これらの方々に加えて、アンケートの対象としては小さなお子様をお持ちの親御さんから見た若い人の課題等を抽出するため、20歳から49歳と設定しているところ。二つ目の転入の山については、今の時点では検討していないが、今後検討したい。（事務局）

→転入の山について、一つ目の山（20歳から24歳）は高校や大学を卒業後、家業を継ぐために帰ってきたもの。二つ目の山（60歳から64歳）はリタイア後、故郷に帰ってきた数値であるとする。

（堀江市長）

- ・まち・ひと・しごとでは、よく企業よりも家業という話が出ていて、昔から企業で働いたり、起業することも大事ではあるが、自分のコミュニティでちゃんと商いをするのが大事だと言われており、若い就労者が上天草市にいたことがわかって良かったと思う。
- ・アンケート調査について、上天草高校は3年生を対象としている根拠をお尋ねしたい。個人的な考えとしては1年生からしっかりとした考えを持っており、上天草市の将来を担う高校生が就職、進学及び地元の活性化等に対してどう意識を持っているかを確認するためには3年生に限定する必要はないとする。

→3年生を対象としたのは、自分の進路を真剣に考える時期ではないかと想定したものであり、必ずしも3年生だけでなければならないというものではない。アンケートの対象についても再度検討させていただきたい。（事務局）

（8）今後のスケジュール（案）について

○事務局より資料5及び資料6に基づき説明。

【意見等】

- ・資料5を見ると本日（8月27日）が第1回で、10月末に最終回（第4回）となっているが、この流れのとおり進めればよいということか。

→この方法で大まかにやらせていただきたいと考えているもので、必ずというものではない。従前、構成員の方々に説明申し上げている内容等を踏まえて事務局から示したもので、ご意見等があれば当然検討していく。（事務局）

- ・本会議で議論すべきことは何なのか、共通理解が得られていないのではないか。この総合計画を具体的に上手く回すことを考えていくという理解でいいのか。

→本市の第2次総合計画は人口減少に対応することを主眼においているが、本会議の議論においては必ずしも総合計画に捉われる必要はないとする。（事務局）

→第2次総合計画は特に観光振興に重きを置いており、それに付随する形で第1次産業の振興を位置付けている。今回の総合戦略については雇用を非常に重く考えないといけないと思っているが、地方創

生の産業部会のみでは雇用に結び付くとは思っていない。健康福祉分野についても地方創生の可能性は十分あると思う。第2次総合計画に捉われることなく、幅広く忌憚のない意見を賜りたい。（堀江市長）

- ・福祉や教育部門など、私たちに関係のある部分で多様性のある意見を取り入れていきたいという事が今回の会議の目標で、色々と議論を深めた上で事務局において抽出作業を行ってもらうことになる想定されるので、今回示されたスケジュールは少しタイトだと思う。最後の開催を年内までに終了するよう検討していただけないのか。

→冒頭に申し上げたとおり5年間の計画の中で考える必要があり、最初の1、2年は十分な議論というか、基礎を作っていく期間だと思っている。逆に準備不足のまま事業をスタートさせることが地方創生につながるとは思っていないので現状を理解した上で会議を進めていただきたい。（堀江市長）

→効率的な会議運営を考慮した上でのスケジュール案ではあるが、皆様の御意見を踏まえ、スケジュール感に関してはもう一度検討し、次回の会議で改めて報告したい。（事務局）

○事務局より参考資料1から7に基づき説明。

（9）ワークショップ

○委員やオブザーバーを6グループに分け、ワークショップを実施。

（10）閉会

- ・上天草市の子ども達は高校を卒業して都会に出て、しばらくすると半数くらいの方が帰って来ると言う話があったが、まちの姿というのは内にいる人はなかなか見えにくいところがあって、若者や外の人の視点が大事になる。それだけではなく、実際に実行に移すには上天草市役所の方を中心に実行していく必要がある。上天草市を良くするためには市役所の中からも意見を言っていただきたい。そういう場を作っていくことがまち・ひと・しごと創生の一番大事なところだと思うので、そういう風な形で進めていきたい。（田中座長）
- ・次回の会議は9月末に開催したいと考えている。なるべくたくさんの方に出席していただくよう調整したい。ワークショップで出された意見等を集計し、なるべく早めに皆さんにお返りする。今後は情報を共有するスタイルで進めていきたい。次回も後半にワークショップを実施したい。

骨子については、年末を目途に作りたい。（田中座長）

- ・会議というものは緊張感があり、なかなか発言が少ないのが実状である。
そういった意味では、今回のワークショップの手法は有用であると考え
る。後は具体的な方策を考える必要があるが、地元の人よりも客観的に
見る人の方がズバリとした意見が言えると思うので、次回の会議に期待
したい。（堀江市長）

上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（第１回） 出席状況（確定版）

（五十音順、敬称略）

氏名	所属等	出席
石炭 圭一郎	上天草市建設部建設課 係長	○
入口 紘光	上天草市経済振興部観光おもてなし課 参事	○
岩崎 敏治	株式会社隆勢 代表取締役	○
岩原 慎一郎	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	○
大野 公二郎	上天草市総務企画部総務課 係長	○
片島 荷風	デザイナー	○
北垣 洋	北垣水産	○
木下 榮	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	
迫本 潤一郎	上天草市経済振興部農林水産課 課長補佐	
篠田 良	上天草市教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	○
杉本 健一	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	○
園田 健吾	上天草市総務企画部総務課 主幹	
田口 英明	上天草市教育委員会 教育指導員	○
田中 尚人	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	○
田中 道範	上天草市社会教育委員長	○
寺中 寛人	上天草市経済振興部産業雇用創出課 参事	
永野 富子	上天草市健康福祉部健康づくり推進課 係長	○
西川 みち恵	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 課長	○
西原 一雄	上天草市建設部都市整備課 参事	○
一 喜美男	熊本県天草広域本部 総務部長	○
濱田 真和	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	
濱崎 富雄	上天草市教育委員会 中央公民館長兼市立図書館長	○
深谷 恵了	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	
益田 佳世	上天草市健康福祉部福祉課 係長	○
松本 俊博	熊本県立上天草高等学校 教頭	○
宮内 勝幸	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	
森 隼人	上天草市健康福祉部高齢者ふれあい課 参事	○
矢田 健一郎	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	○
吉野 誠	上天草市市民生活部環境衛生課 主事	○
吉本 博明	上天草市市民生活部税務課 主幹	○
渡邊 一成	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	○